

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2005

1/1
NO.882 毎月1日発行



謹賀新年



いま飛び立つ
新しい小田原に向けて

2005年



市民の皆さんと 一緒に考え、つくりあげる 小田原のまちの将来像

新しい年が始まります。

地方分権のさらなる推進が検討されている中、今年、小田原はどう変わっていくのでしょうか。新年の抱負と今後の小田原のまちづくりについて、市を代表する二人に語っていただきました。

明けましておめでとうございます。
新年を迎え、市民の皆さんの幸せを心から願っています。
また、4期目の初の新しい年、市政への夢と厳しい時代に望む決意がない交ぜとなって、情熱に燃えて、新しい小田原の姿を市民の皆さんと形づくっていききたいと思えます。

安心して暮らしていただくために

昨年は異常気象やそれに伴う災害、特に新潟県中越地震や福井県の水害など大きな天災が相次ぎました。被害に遭われたかたがたには心よりお見舞い申し上げます。隣町とも思える身近な地域での被害に他人事とはとても思えず、私たち市民は心配するとともに、大きな教訓を得たように感じています。この災害から受けた教訓を本市の防災施策に反映し、市民の皆さんが安心して暮らせるよう考えていきたいと思っております。

新しいまちのかじ取り・後期基本計画がスタート

一昨年から、市民のかたがたの英知を集め、検討を進めてきた、まちづくりの基本的な方向性を定めた市総合計画「ビジョン21おだわら」の後期基本計画が、いよいよ新年度からスタートします。

これは、私の市長選挙での選挙公約であるマニフェスト、今後の政策や予算を具体的な形で示し、施策を的確に進める第一歩です。少子高齢化や情報化社会、人口の減少、地方分権など、厳しい言葉がらぶ中、これからの小田原の展望を切り開くため、市民の皆さんの期待にこたえられるよう、一歩着実に歩んでいきたいと考えています。

ルネッサンス推進本部を設置

私を本部長とするルネッサンス推進本部を、市民アドバイザーにも参加してもらい、設置しました。



小田原市長 小澤 良明

小田原の将来、大きな課題を明らかにしていきたいと考えています。

まず、小田原らしい個性、魅力のある都市の景観や空間をどのように構築するか。また、住むことで心が豊かになるような地域社会をどのように作っていくか。これらは、市長になって以来追い求め、これからも追い続ける、私にとつての市政の永遠のテーマです。

この2点について、しっかりと検討し、具体的な姿を市民の皆さんに提示していきます。

小田原の未来の姿、将来像を市民の皆さんと語り合い、意見や想いを交換し合って、しっかりとつくりあげるため、今年も全力で市政に当たっていきます。



新年あけましておめでとございます。
市民の皆さんにおかれましては、
輝かしい新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

新しい地方分権に向け
議会と行政が一体となったまちづくりを

昨年は、アテネオリンピックとパラリンピックで日本選手が大活躍し、日本中に夢とやる気を与えてくれました。しかし、一方では過去最多の台風上陸と新潟県中越地震発生により多くの人的・物的被害を受ける近年まれな災害の年でした。

本市でも台風22号上陸の被害を受けましたが、大きな被害に至らず安堵したと同時に、改めて災害に強いまちづくりの重要性を感じました。

さて、私たち自治体を取り巻く環境も大きく変わってきましたが、昨年は、国と地方の間で地方分権確立をめざす「三位一体改革」の議論が本格化しました。そこで本議会も従来のような行政チェック機能だけではなく、議会と行政とが真の両輪となり、小田原のまちづくりに取り組まなければならないと議員一同決意を新たにしましたところ です。

また、昨年はいろいろな議会改革に取り組みしました。「交流」をキーワードに掲げ、市内の各種団体との話し合いや、県西地域の2市8町議会の正副議長による懇談会を立ち上げ、それぞれの行政が抱える課題を議会・議員の立場から意見交換し、課題の共通認識を図りました。本年は、さらに情報交換と交流を進め、今後のまちづくりに生かしていきたいと考えています。

本市のさらなる発展のために

本年は、多くの市民の皆さんにご参画いただき策

定した市総合計画「ビジョン21おだわら」の後期基本計画がいよいよスタートします。市議会としても、市民協働による計画の意義を重く受け止め、計画実現に努力していきますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

本年の干支は酉。昔から「鶏の声は夜明けを知らせるほか邪気を払う」といわれ、また、「羽ばたく」ということで「明るく飛躍の年」ともいわれています。本年が市民の皆さんにとって、明るく良い年でありますことと、皆さんのご健勝・ご多幸を祈念いたします。

【小田原市議会議長】
大野 眞一



現在、活性化策の一つとして、国の支援を受け、市民組織が中心となり、中心市街地の文化的・歴史的資源である「街かど博物館」や「なりわい交流館」を舞台に、さまざまな事業を行っています。

また、市民みんなで小田原の街の魅力を再認識し、中心市街地活性化の方向性を考えていく「中心市街地活性化フォーラム事業」を開催します。

① まちづくり活動支援事業

① なりわい歳時記再現事業

(小田原やんべえ倶楽部)

小田原の旧家の面影を残し、中心市街地回遊の拠点となっている「小田原宿なりわい交流館」などを舞台に、小田原に伝わる四季折々の行事を催します。

○ 小田原流門松の設置

商業者や一般の参加者の協力により、真竹一本をまるごと使った小田原流門松が飾られ、昭和初期ごろの風景が再現されました。



中心市街地活性化をみんなが進めていこう 中心市街地活性化フォーラム事業を展開

市内に18の鉄道駅がある小田原は、各駅周辺が地区の「核市街地」として発展しており、それぞれの特色を生かした振興策を展開しています。中でも小田原駅周辺は「中心市街地」として、平成11年の活性化基本計画策定以来、小田原TMOや商業者などと連携し、リサイクルプラザや女性プラザの開設、街かどコンサートの開催、回遊バスの運行など、さまざまな活性化策を展開してきました。また、今後は活性化基本計画を見直すなど、さらに実効性のある活性化策を進めていきます。

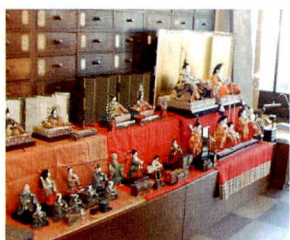
産業政策課 ☎ 331519



○ おひなさまのひなたぼっこ

―おだわら雛の道中―

蔵や押し入れにし
まわっていた、ひ
な人形を店先など
に飾りつけ、街な
かへ来ていただい
たお客様をおもて
なします(2月〜
3月に展示予定)。



② 街かど博物館ネットワーク事業

(小田原まちづくり応援団)

街かど博物館長連絡協議会

「街かど博物館」の魅力東京へ発信しながら、小田原のイメージなどを把握し、どうしたら多くのかたがたにきていただける、魅力的なまちになるか事業の実施を通じて研究しています。

○ 街かど博物館応援コンペ

「街かど博物館」のイメージを分かりやすく表現した映像などの作品を公募し全国へ博物館をPRします。また、今後、博物館の広報として活用します。

募集する作品 街

かど博物館の魅力を自由に表示したもの

(1作品3分以内)

応募方法 1月15

日(土)〜2月15日(火)

まで(必着)に、産

業政策課(市役所4

階)にある専用の応募用紙に必要事項

を書いて、作品内容を記録した媒体

と合わせて郵送。

〒250-8555

小田原市産業政策課

※応募用紙はホームページでも確認

できます。

<http://www.machien.net/project/competition/comp.html>

審査方法 書類審査と一般公開の審査会で優秀作品を決定します。優秀

作品は、東京・日本橋で開催予定の

街かど博物館販売キャラバンでさら

にPR度を審査し、3月12日(土)の中

心市街地活性化フォーラムで総合グ

ランプリを決定します。



③ 中心市街地魅力スポット

豆知識ブックの作成

(小田原まちづくりネットワーク)

市民や観光客の皆さんの「生の声」を反映させた中心市街地豆知識ハンドブックを作成し、地域の文化的・歴史的資源の有効活用策などを検討します。街なかの隠れた名所や見所などの情報がありましたら、産業政策課までお寄せください。

② 中心市街地活性化フォーラム

まちづくり活動支援事業の報告・検証をし、活性化への活用方法を見出していきます。

また、専門家の意見をいただきながら、市民や商業者などのまちづくりへの関心や参加意欲を高めていきます。

期日 3月12日(土)13時〜16時

場所 市民会館

内容 ○街かど博物館応援コンペ優秀作品の披露 ○各まちづくり活動支援事業

の活動報告 ○パネルディスカッション

の活動報告 ○パネルディスカッション

平成16年度

小田原市民功労賞の 受賞者が決定！

新たに小田原市民栄誉賞を創設

国や世界レベルで
大きな記録を樹立したり、
成果を上げたりすることで、
市民の皆さんに明るい希望と誇りを与え、
小田原の名を高めたかたに贈る
「小田原市民栄誉賞」を
創設しました。

学術・文化・福祉・産業など、市民生活のさまざまな分野で功績のあつたかたがたにお贈りする市民功労賞。平成16年度の受賞者が決まりました。また、今年度から「小田原市民栄誉賞」を創設しました。両賞の贈呈式は1月10日(祝)に市民会館で行います。なお、両賞は市民の皆さんからの寄付金をもとに設置した「小田原市ほう賞基金」により運営しています。

市民交流課 331703



【市民功労賞】
故穂坂英山さん(曾我別所)

歴史ある「曾我の傘焼まつり」を隆盛に導き、「小田原」の観光イベントとして広く定着させ、魅力あるまちづくりに尽力されました。



【市民功労賞】
平井やゑ(櫻岳)さん(扇町)

長年鎌倉彫の紹介・指導を続けられ、生涯学習の新分野としてその普及を図り、市民文化の向上に寄与されました。



【市民功労賞】
野地博さん(国府津)

青少年の健全育成支援、地域ぐるみでの交通安全運動や防犯活動など、地域の自治活動に長年尽力され、明るく健全な地域社会づくりに貢献されました。



【市民功労賞】
池谷一元弘さん(中町)

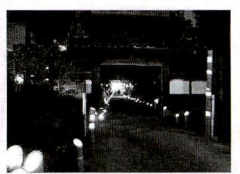
長年小田原漆器の技術技法の向上と後進の指導・育成に努められ、小田原の地場産業の振興に尽力されました。

【市民栄誉賞】
磯崎直美さん(曾比)

受賞者第1号の磯崎さんは、先のアテネパラリンピック競技大会で、アーチェリーの個人種目に出場し、銀メダルを獲得されました。



小田原彩時記



秋の交流会で歴史と情緒を体感

板橋の松永記念館や周辺の寺社を会場にした「板橋秋の交流会」が、11月13・14日に開かれました。

13日の前夜祭では、地元板橋の皆さんによる手作り竹灯ろうが会場周辺を飾り、その穏やかな灯りと溶け合う尺八の音や、寺の本堂で奏でられた雅楽の響きなど、板橋の幻想的な世界に思わずため息が。

翌日は小田原・城下町大使によるトークをはじめ、落語や講演、飲食などさまざまなプログラムで盛り上がりました。

前夜祭も含めて訪れた皆さんは、板橋の歴史や魅力に触れるとともに、深まりゆく秋を満喫しました。

お城通り地区再開発の実現へ

小田原駅東口お城通り地区(現・東口臨時駐車場周辺の土地、約12,000㎡)の再開発事業について、地権者で構成する「小田原駅東口お城通り地区再開発準備組合」が、事業の実現に向けて、再開発計画を作りました。

〔間〕広域交流拠点整備課

☎331654

FAX 331659



この事業は、再開発準備組合(理事長・高島健二)が、民間事業者の資金調達能力、専門的な知識、経験などを活用して行います。市としてもまちづくりの観点から、広域的な人・もの・情報の交流拠点として、また、小田原の玄関口としての整備に向け、事業の促進を図ってきました。

再開発ビルは、人的交流の場としてのホテル、産業振興や文化交流の場としてのコンベンション(会議場)など、さまざまな用途を組み合わせた、地下1階、地上30階の複合ビルとなります。また、東口駅前広場からつながる広場や緑道など、緑豊かなゆとりある空間を創り出すとともに、再開発ビル内に市民や来訪者の皆さんのための施設も設け、小田原の新しいシンボルとして、賑わいを演出していきます。

この再開発事業の参考とするため、市民の皆さんのご意見を、Eメール、ファクス、郵便でお聞かせください。

なお、個別の回答はいたしません。詳しくは、市のホームページや広域交流拠点整備課(市役所6階)にある資料をご覧ください。

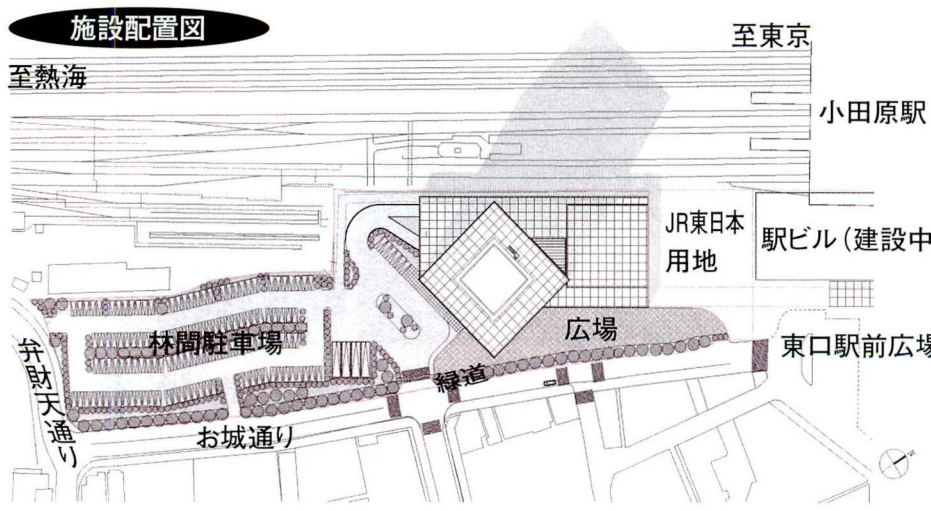
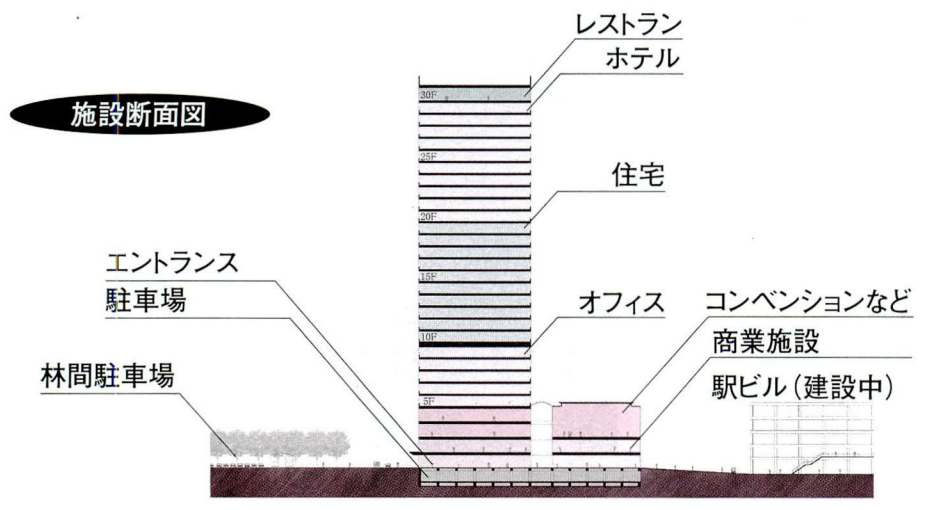
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kouiki/
kouiki/

Eメール

koiki@city.odawara.kanagawa.jp

〒250-8555

小田原市広域交流拠点整備課



スポーツを通じた
新たな地域社会づくり

総合型地域スポーツクラブ の創設に向けて

問 スポーツ課
☎38-1148

平成12年9月に文部科学省が発表した「スポーツ振興基本計画」では、①いつでも、どこでも、いつまでも、だれもがスポーツに親しめる生涯スポーツ社会②成人の二人に一人が週一回以上のスポーツを行うこと、を目指し、「生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域

におけるスポーツ環境の整備充実」をその柱の一つに掲げています。そこで、2010年(平成22年)までに、全国の市町村に少なくとも一つ、総合型地域スポーツクラブを育成することを目標にしています。

本市では昨年、総合型地域スポーツ

クラブの創設方法などを議論する場として、体育協会、体育指導委員協議会、中学校体育連盟、スポーツ少年団といったスポーツ関係団体に推薦していただいた委員のほか、公募による一般市民、教育委員会推薦の委員を構成メンバーとする「市総合型地域スポーツクラブ研究会」をつくりました。ここでは、スポーツ関係団体の活動状況や施設の利用状況など、さまざまな観点から議論を交わし、試行的に事業運営を行うモデル地区の選定をしました。

今後は、総合型地域スポーツクラブの基本理念やメリットなどをモデル地区に説明し、協力を得ながら、具体的な事業運営を検討していきます。皆さんも、新たな地域社会づくりを目指した「総合型地域スポーツクラブ」に積極的なご意見をお寄せください。

総合型地域スポーツクラブとは

総合型地域スポーツクラブの「総合型」とは、三つの多様性を指しています。

一つは種目、一つは世代や年齢、もう一つは技術レベルの多様性です。

こうした多様性を持ち、活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民の皆さんの希望に応じ、質の高い指導者のもとで活動できる、それが総合型地域スポーツクラブです。

具体的には

- 単一のスポーツ種目だけでなく複数の種目が用意されている
- 障害者はもちろん、子どもから高齢者、初心者からトップレベルの競技者まで、それぞれの年齢、興味・関心、体力、技術・技能レベルなどに応じ



て活動できる

- 活動の拠点となるスポーツ施設があり、定期的・継続的なスポーツ活動ができる
- 質の高い指導者により、個々の希望に応じた指導が行われる

総合型地域スポーツクラブのメリットは

総合型地域スポーツクラブを育てることは、スポーツ人口を増やすことだけでなく、社会環境が変化する中で、地域社会が抱える諸問題を解決する一つの手段となります。

- 考えられる具体的なメリット
- スポーツ文化の醸成
- 青少年の健全育成
- 地域教育力の回復
- 地域コミュニティの形成
- 世代間交流の促進
- スポーツ施設や地域の人材の有効活用
- 地域の健康水準の改善
- 高齢者の生きがいづくり



介護の悩みや相談は

在宅介護支援センターへ

本市でも高齢化が進み、ご自宅で高齢者を介護されているかた、また将来介護が必要になったときが不安というかたも増えています。高齢者や介護者からの相談を受ける場所、それが在宅介護支援センターです。

●高齡介護課

在宅介護支援センターについて ☎331841

高齢者の介護や福祉サービスの相談 ☎331825・1875



在宅介護支援センターとは

高齢者のかたや、寝たきりや痴呆の高齢者を介護している家族からの電話などによる相談に応じています。

また、高齢者が保健・福祉サービスを総合的に受けることができるよう、関係機関・事業所との連絡調整や利用手続きの代行もします。

この施設は、特別養護老人ホーム・老人保健施設や病院の中など、市内9か所に設置しています。

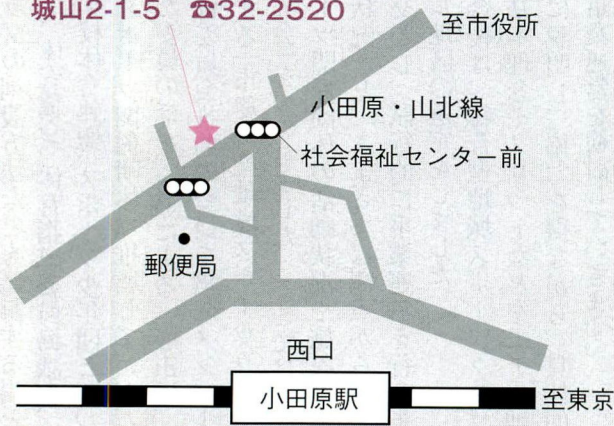
基幹型支援センターとは

地域型支援センターの連携を取り持つほか、住宅改修の相談にも応じます。

また、高齢者疑似体験セットの貸与・体験学習事業も行います。

社会福祉センター内にある社会福祉協議会在宅介護支援センターがこれに当たります。

●社会福祉協議会在宅介護支援センター
城山2-1-5 ☎32-2520



地域型支援センターとは

各地域で高齢者の在宅生活の支援を行う施設で、現在、市内に8か所あります。介護の相談は、お近くのセンターをご利用ください。

在宅介護支援センター名	住所	電話番号
西湘老人ホーム	早川853	☎24-5601
潤生園	穴部377	☎35-9500
ルビーセンター	曾我光海2-1	☎42-1278
鴨宮ケアセンター	南鴨宮2-27-19	☎48-6877
たちばなの里	小船213-1	☎44-1100
山近記念総合病院	小八幡3-6-22	☎45-3222
陽光の園	入生田475	☎24-0005
間中病院	本町4-1-26	☎23-3111

在宅介護支援センターでは、保健・福祉の現場職員が情報交換を行い、高齢者の皆さんが安心して生活できるような介護体制を整えていくための場として、地域ケア会議を設置しています。今年度からは民生委員も地域ケア会議に参加するなど、在宅介護支援センターを地域における身近な相談窓口として活用していただけるよう、さらなる機能の充実に努めています。

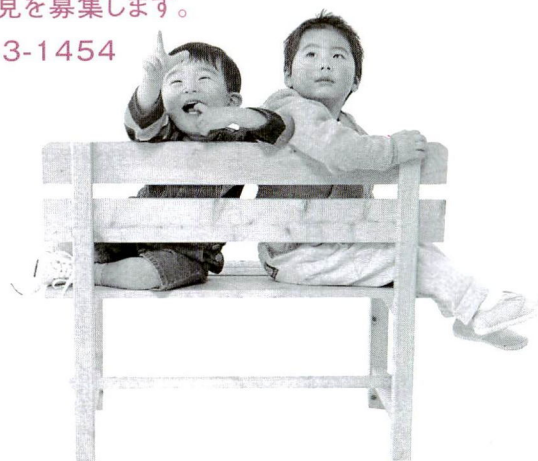
また、市役所でも昨年4月から介護保険相談担当を設置し、高齢者の介護や福祉サービスに関する相談全般をお受けしていますので、あわせてご利用ください。



次世代育成支援対策 行動計画素案に あなたの意見をお聞かせください

「次世代育成支援対策推進法」の規定に基づく
市の行動計画素案がまとまりました。
市民の皆さんのご意見を募集します。

☎児童福祉課 ☎33-1454



昨年7月、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を目的として、次世代育成支援対策推進法が公布、施行されました。

この法律により、今年度中に地方自治体、事業主は、国が示す指針に基づいて、次世代育成支援対策の実施に関する計画（行動計画）を策定することになっていきます。

本市でも、今年3月の計画策定を目指し、市民のかたがたや専門家などを委員とした市次世代育成支援対策地域協議会との協議を重ね、行動計画の策定作業を進めてきました。

このたび、前期計画の素案がまとま

りましたので、その内容に対する市民の皆さんのご意見を募集します。

計画素案の内容

- 地域における子育ての支援
- 母性と乳児・幼児などの健康の確保と増進
- 子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境の整備
- 子育てを支援する生活環境の整備
- 職業生活と家庭生活との両立の推進
- 子どもなどの安全の確保
- 要保護児童への対応などきめ細かな取り組みの推進

計画の期間
平成17年度から平成26年度（10年間）

前期計画 平成17年度から21年度
後期計画 平成22年度から26年度
募集期間 1月5日（水）～26日（水）

応募方法 行動計画の素案と意見募集用紙は、1月5日（水）から児童福祉課（市役所2階）、支所・連絡所、窓口コーナーで配布、回収します。

また、児童福祉課のホームページにも素案を掲載します。Eメールでもご意見をお寄せください。

ホームページ
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/jidou/
Eメール
jido@city.odawara.kanagawa.jp

ファミリー・サポート・センターは、市民のかたに支援会員（育児の援助を行いたい人）と依頼会員（育児の援助を受けた人）になっていただき、市民の皆さんが主体となって、育児支援活動を行う事業です。

活動開始以来、多くのかたに会員になっていただき、活動も円滑に行われています。

そこで、さらにも多くのかたがたに支援会員になっていただき、一層活動を充実させるため、研修会を開きます。支援会員の登録を希望されるかたは、お申し込みください。

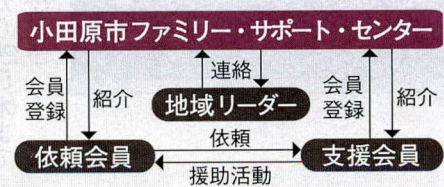
※この研修会を受講しないと支援会員として登録されません。

日時 1月26日（水）～28日（金）
9時30分～12時（全3回）

場所 マロニエ ※託児あり

申込 1月25日（火）までに
ファミリー・サポート・センター
小田原市城山2-1-5
社会福祉センター2階

ファミリー・サポート・センター
「支援会員研修会」参加者募集
申込ファミリー・サポート・センター
☎350053



行革ニュース 第9回

市の施設を

もつと活用してみませんか

施設は、市民の皆さんや地域の共通の財産です。市では、市民のかたがたへの「第2の窓口」と考え、より使い勝手が良くなるように開放を進めています。

☎ 行政経営室 ☎ 33 1 3 0 5

市には、市民会館や中央公民館など、市民活動や生涯学習活動に利用できる集会用施設が41か所あります。下記の表のように、利用率の低い施設もかなりあります。施設は、行政と皆さんをつなぐ「第2の窓口」です。より広く活用していただくためには、使いたいときに、いつでも使えるように、利用上の制限をできる限り少なくするなど、利用者への「やさしさ」の視点が欠かせません。

そこで、①利用時間の拡大、②利用手続の簡素化・より使いやすくするための相談・協働、③施設の設備の充実、の3点について「開放の品質基準」や皆さんのご意見を反映する仕組みを作り、資産の利用価値を高めていきます。

※市内の公共施設一覧を市のホームページでご案内しています。
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/

集会用施設の年間利用率

●利用率が高い施設

	施設名	利用率
1	社会福祉センター研修室	74.4%
2	川東タウンセンターマロニエ	69.5%
3	生きがいふれあいセンターいそしぎ	67.6%
4	小田原アリーナ	66.9%
5	中央公民館	57.2%

●利用率が低い施設

	施設名	利用率
1	中央公民館大窪分館	0.3%
2	いこいの森多目的ホール	0.8%
3	塔の峰青少年の家講堂	1.1%
4	サンサンヒルズ	2.8%
5	松永記念館会議室・老樺荘	3.2%

※利用率=利用時間数/利用可能時間数

おだわらインフォメーション

Odawara Information

親子で「おもしろ算数教室」 難問に挑戦しよう！

教育委員会では、学校五日制で休日となった土曜日を中心に、小・中学生に新たな学びの場を提供しています。昨年10月には「小学校ふれあいロボット体験」おもしろ国語教室を開催。そして第3弾として、2月には「おもしろ算数教室」を開きます。

☎ 学校教育課 ☎ 33 1 6 8 4

親子でいろいろな問題に挑戦して、学校の授業とは違った算数のおもしろさを体験し、考える力をつける「おもしろ算数教室」。昨年度は申し込みが予想を上回り、ご迷惑をおかけしました。今年度は2回の講座に分けて行います。

第1回 おもしろ算数教室

小学校4～5年生を中心とした内容です。

日時 2月5日(土)13時～15時

場所 マロニエ

講師 横浜国立大学教育人間科学部

教授 石田淳一さん

第2回 おもしろ算数教室

小学校5～6年生を中心とした内容です。

日時 2月19日(土)13時～15時

場所 マロニエ

講師 横浜国立大学教育人間科学部

教授 橋本吉彦さん

対象

○各回とも小学生40人程度と保護者の希望者

○2回の参加可

○対象学年以外の参加可

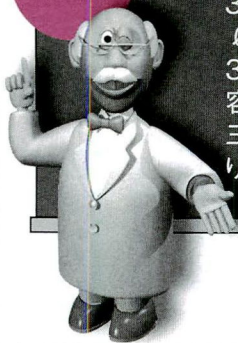
申込 1月4日(火)から20日(木)まで、

電話で(多数抽選)

チャレンジ問題

300ml用の容器と700ml用の容器と1ℓ用の容器が一つずつあります。300ml用と700ml用は空で、1ℓ用の容器には1ℓの水がはいっています。三つの容器を使って500mlの水をはかりとるには、どうすればよいでしょうか。

わかるかな?



政策総合研究所通信

政策総合研究所 ☎331315

地域特有の仕組みを発見し、地域の底力を発揮する

今年度の政策総合研究所では、下曽我地区をモデル地区の一つとして、地元の若手10人と一緒に「地域コミュニティでの問題解決の仕組みづくりに関する実践的研究」を行っています。

去る11月23日には地区住民のかた約90人が参加して、公開研究会も行われました。今回は、今までの研究の状況を紹介します。



▲会場の参加者にも番号で意見を聞いた公開研究会。「今、小学生の子どもがいるとしたら、どこで遊ばせたいか」という質問では、多くのかたが「1自然の中」を選択

地域社会の基盤は人々が地域に根を張り互いを認め合うこと

「職場の同僚には『近所づきあいが多くて大変ではないか』と言われる。でも『地震があっても、隣の人の顔を知らなかったら助けてもらえないぞ』と言い返している」「祭りを通して、子どもの顔を皆さんが知っている。悪いことをしていれば注意できる」。これまで下曽我の魅力と課題を探る中で出された発言です。

人びとが地域に根を張って生き、互いの顔を知っていて、存在を認め合っていること。これが地域で暮らしていくうえで最も大切な基盤となる部分であり、下曽我では、祭りがそれを支える役割を果たしていることが浮き彫りになりました。

再評価すべき地域特有の人育ての仕組み

下曽我の祭りに10代〜30代の参加者が目立つ理由を調べる中で、祭囃子の練習の中に、地域特有の人育ての仕組みがあることが明らかになりました。

「お囃子の練習は、その場限りの教え方ではなく、育成者を育てている」「大きくなると自覚を持って、自分も」と責任が出てくる」「小学生も5〜6年生は1〜2年生の面倒を見、1〜2年生はそのお兄さんお姉さんに憧れる」「歳をとることが偉くなるのではなく、責任が重くなるということを自然に身につける」などの発言があり、こうした強い教育力を持つ仕組みが定着し、地域運営を支えていることが参加者の間で再認識されました。



▲子どもを育成する若者を育てることにより、良い循環が生まれる

問題解決のための企画機能を地域コミュニティが持つ

下曽我地区でも子どものころに遊び、慣れ親しんだ自然が変わり始めていることが指摘されました。また、農業従事者の高齢化により、今後、農地が荒れていく懸念も出されました。

しかし、自然の素晴らしさ、下曽我の良さを子どもに伝えていくことの大切さが意識され、その取り組みも始まっています。

公開研究会では、自然の保全など地域の課題に立ち向かい、今の良い雰囲気を持続していくためには、先に確認された「基盤」の上にならば、地域コミュニティに企画機能を持つことが必要になるのではないかと意見が出されました。

こうした議論を踏まえて、今後、下曽我地区に合った問題解決の仕組みづくりを促すプログラムと一緒に検討するとともに、研究所として、他の地域に応用できそうなポイントを探っていきます。



▶「この共同研究の話があったとき、祭囃子保存会や消防団、商工会など、私自身、いろいろな団体に属しているので個人個人が各団体に頑張っている問題を解決していけば、地域全体の底上げになる」と思っていた。研究会で同年代のいろいろな意見を聞き、我々が横のつながりを大切に、自治会や行政にうまく働きかけていければ、各団体による問題解決とまた違ったおもしろい方法となると思う」と発言する地元研究会メンバー



小田原の学区を考える

「小田原市の学区制度に関するアンケート」結果

市立の小・中学校の学区のあり方、見直しを調査・研究する「学区審議会」を平成15年11月に設置し、検討をしています。

学区審議会では、広く市民の皆さんの意見や学校現場の意見を聞くため、昨年7月に「小田原市の学区制度に関するアンケート」を行い、現在の学区制度や、学校選択制の導入に對して、どう考えているのかを調査しました。

問 学校教育課 ☎331682

今回のアンケートは、幼稚園・保育所、小学校、中学校のほか、自治会を通じ、現在お子さんが就学しているかたから既に子育てを終えられたかたまで、幅広い年齢層約3,000人を対象に行いました。

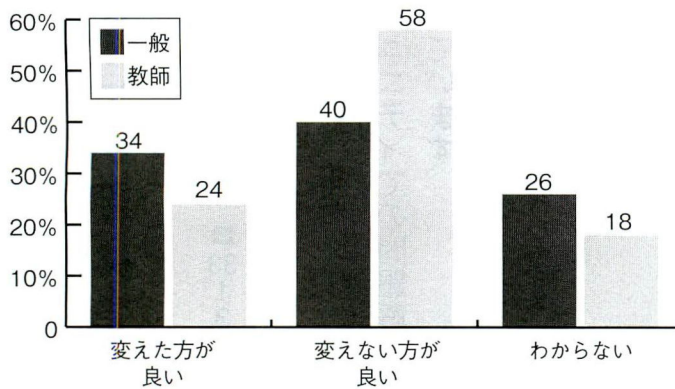
また、保護者や市民のかたとは別に、小・中学校の教師400人から、教育現場で働いている立場からの意見も聞きました。

アンケート結果の概要をお知らせします。

①「あなたは、通学する学校があらかじめ指定されている現在の「学区制度」を変えた方が良いと思いますか」という質問に対しては、保護者・市民のかたの意見が大きく分かれた反面、教師の約6割は反対という結果でした。

※グラフ1参照

グラフ1 「学校制度」変更について



学区制度を変えた方が良いと答えたかたの理由で多かったのは、「家から

近い学校・通学しやすい学校に通えるようになるから」という意見が最も多かった(24・2%)のに対し、変えない方が良いと答えられたかたの理由として多かったのは、「地域とのつながりが大切だから」というご意見(30・1%)でした。

②「あなたは、小田原市の小・中学校で学校選択制を導入したほうが良いと思いますか」という質問では、一般の意見は何らかの形で導入した方が良いという意見がほぼ半数であったのに対し、教師の意見では導入しない方が良いという意見が半数でした。

※グラフ2参照

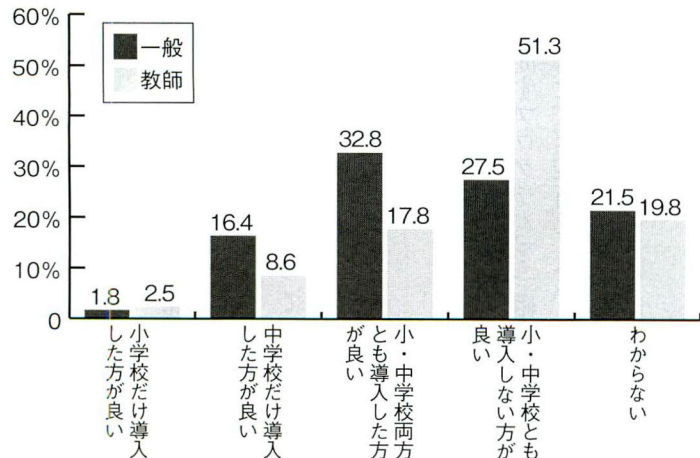
また、保護者が学校を選ぶときに重視することとしては、通学距離や通学のしやすさ、学校の特色や教育目標など、さまざまなご意見がありました。

今後、学区審議会では、今回のアンケートに寄せられたご意見などを基に、小田原にふさわしい学区のあり方を検討していく予定です。

※「小田原市の学区制度に関するアンケート」の集計結果の詳細は、学校教育課のホームページをご覧ください。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/gakko/>

グラフ2 「学校選択制度」の導入について





今昔物語 小田原城

石垣は、天守閣や門などと一体になって、城の堅固さとともにその美しさを私たちに印象付けています。今回は、その石垣を観察しましょう。

文化財保護課 ☎33-1717

後北条氏のころの小田原城は、実は石垣はあまり使われず、空堀や土塁で構成されました。江戸時代の寛永9年(1632)に稲葉正勝が小田原藩主となりますが、これ以降近世の城として整備が進められ、石垣で守り固められた現在の小田原城の原形がつくられていったのです。

矢穴跡

本丸東堀(常盤木橋北部分)には、関東大震災で崩れた石が今もそのまま置かれています。よくみると、爪あとのようなものがついた石があることに気がつきます。採石した大きな石を石垣用に加工するために割りますが、そ

のときに長方形の穴の列をつくりまします。そして、それぞれの穴に矢鉄を打ち込んで、徐々に亀裂を広げていきます。この矢穴跡が残る石は、よく見ることが出来ます。

刻印

よく石垣を観察していると、のみで刻み込まれた刻印がみついた石を見かけることがあります。石を採石場から城まで運んだときに、何かの符号か目印としてつけられていたと思われるのですが、正確なことは分かっていません。天守閣や堀の石垣などでも見ることが出来ます。小田原城内では意外に多く、数十種類確認されています。あなたはいくつ見つけることができるでしょうか。



水抜き用排水口

石垣の中に四角い穴が空いていることがあります。これは、雨などでたままった水を城中から流すために、石垣の途中に水路の出口を組み込んだ排水口です。お堀端通りに面している二の丸の石垣、学橋より少し北側にもあります。また、図書館裏のずれ落ちた本丸の石垣にも排水口が確認できます。写真でも分かる通り、板状に石を切り箱型に組み合わせてつくられています。



石垣の下

さて、ふだん見ることのできない堀の水に

沈んでいる石垣の一番下は、どうなっているのでしょうか。一番下の石を「根石」といいますが、この上に石を積み上げて石垣はつくられています。では、その根石の下はどうなっているのでしょうか。

直接土の上に根石を並べることもありますが、多くは最初に木を置いて、その上に石が並べられています。この木のことを土台木(胴木)といいます。住吉堀(銅門の前)の堀の調査では、太さ40cmほどのマツの丸太の上に根石が並べられていました。



石垣の裏

石垣の裏側はどうなっているのでしょうか。土の斜面に直接石を積み上げているではありません。石垣の裏側には、栗石と呼ばれる、人の頭ほどの大きさの丸い石が積み込まれているのです。この石をしつかりと詰めておくことが、頑丈な石垣をつくるための重要なポイントのひとつになっています。

石垣をよく観察すると、その場所ごとに石の大きさや形、積み方の違いがあることに気づきます。今は最もよく石垣を観察できる季節です。ひとつひとつ石を見ることが、今までとは違った小田原城を発見することができるかもしれません。

また、ちよつと足を伸ばして、石垣山一夜城の石垣と見比べてみてはいかがでしょうか。

小田原らしい 街並みの 色彩って？



城下町小田原にふさわしい街並みの色彩を考えるため、公募の市民の皆さんなどが、「おだわらの彩り考え隊」として、1日タウンウォッチング。現在、整備が進んでいる小田原駅東口周辺を街歩きし、建築物や屋外広告物、歩車道の舗装や植栽などを観察し、検討してもらいました。

○ 開都市計画課 ☎ 33 1 5 7 3

「おだわらの彩り考え隊」が 街歩き調査

市では、中心市街地の魅力を生かし、住む人も訪れる人も快適で、心満たされるまちづくりを進めるため、平成14年度に「中心市街地アメニティデザイン推進委員会」を設置しました。平成15年度には、まちなかで生活する人や働く人、訪れる人に「うるおい」や「やすらぎ」を与える空間づくりのあるべき方向を示した「中心市街地アメニティデザイン整備指針」を作りました。今年度は、この整備指針を実現するための基準づくりを進めています。

その活動の一つ、「おだわらの彩り考え隊」は、昨年11月28日(日)に調査を行いました。この調査は、城下町にふさわしい色彩について、素材の生かし方や色使いなどの検討資料とするためのものです。

当日は、公募の市民の皆さんや建築を学ぶ大学生、色彩・デザインに関心の



あるかたと、色彩計画を専門とするアドバイザーなど約40人が参加しました。午前中は、6グループに分かれて、デジタルカメラを片手に小田原駅東口周辺を街歩き。午後は、市民会館で調査結果をグループごとに検討し、その結果発表を行い、最後にアドバイザーの先生による総評がありました。それぞれのグループからは、まちの色彩に関する現状について、率直な意見が出されました。

主な意見は、次のとおりでした。

良い点として

○ 店舗によっては、現代の材料を使いながらも、板張り風のデザインや色彩でうまく城下町の感じを出しているものや、瓦や木、土など、素材の持っている本来の色を使用しているものがある

○ 派手な看板ではなく落ちついた、入りやすい雰囲気お客を呼び込もうとしている

悪い点として

○ 看板類は、数が多く、色彩に統一感が無く、目立ち過ぎで、城下町の雰囲気が感じられない

○ 街路樹の手入れがいき届いていないので、緑が生かされていない

○ 商店街のアーケードと歩道のデザイン・色彩に統一感が無い

○ 企業のイメージ色である原色を外壁に使い、周囲の雰囲気を壊している



また、アドバイザーからは、「それぞれの店が特色を出そうと頑張っているが、調和が図られていない。方針を作って調整していくことが必要」「今日のような活動を広げ、多くの市民のかたに参加してもらうことが大事」などの総評がありました。

今回のこの調査結果を参考にし、今後さらに市民の皆さんのご意見もお聞きしながら、建築物や屋外広告物などの新設や、外観の塗り替え工事などを行ったりする際に、小田原らしい景観づくりを進めていくための手がかりとして、色彩の基準を作っていきます。

輝く小田原人

【第42回】



俳優(小田原市出身)

桐沢晶子さん

「この世界に入ってから、人との出会いにも、そして作品との出会いにも、本当に恵まれてきた」と語る桐沢さん。
巨匠・市川崑監督と多くの仕事をともにしてきた永妻晃氏に芝居を学び、ドラマや舞台などの出演を重ね、いま一段一段着実に階段を上っている。

「子どものころは、内向的だったんです」。そんな彼女の人生を大きく変えたのが、中学生のとき、友達に誘われて応募した大手プロダクションのオーディション。関東地区の代表に選ばれ、決勝まで進んだ。このことをきっかけに、俳優養成所に通い、ほかのオーディションを受け始める。そして、2年前のテレビドラマ「はるちゃん6」(フジテレビ系)で大きな役をもらい、以降ドラマや

CMなどで着実に実績を重ねてきた。仕事や稽古で忙しい今も、日本舞踊やボイストレーニング、クラシックバレエ、手話といろいろとこなす。それは、夢をかなえるためだけでなく、「自分でも、そんなに力強く歩かなくてもと思うときもあるけれど、忙しいのが性に合っているのかもしれない」。そして、「レッスンで学ぶことも大切だけれど、そこで会う人たちとのコミュニケーション

明治座初春公演「コシノものがたり」では、萬田久子さん、池畑慎之介さん、牧瀬里穂さん、赤木春恵さんらと共演する。



昨年11月には、大月みやこさんの新宿コマ劇場での舞台で、時代劇に初めて挑戦。「時代劇は体力的にハードで、何度も倒れました」。殺陣(たて)の場面もあり、「もう傷だらけですよ」と擦り傷が痛々しい手を見せてくれた。「でも、全然苦じゃない。やっていて楽しいんですよ」。写真左は、綿引勝彦さん。

ンがいい刺激になっている」とも。

今年2日からは、世界的デザイナーの「コシノ三姉妹と母アヤコの人生を描く明治座の舞台「コシノものがたり」で針子の役を演じる。「昔の思いが蘇ってきて、うれしいです」というのも、以前スタイリストのアシスタントをしていたときがあった。「女性にはいつも輝いていてほしいんです」。そんな思いから、裏方で役者さんを支えた。「明日までに30人分の衣装を用意しなくてはならなくて、大きなスタイリスト・バッグを抱えて、原宿のまちを泣きながら歩いたこともありましたね」。そして、いまは自身が表舞台に立っている。「役者は、人の心を動かす素敵な仕事。だから、一生女優でいたいし、私にはこの仕事しかないんだって思うんです」。目標はとの問いには、「これとは決まらずに、何でもチャレンジしたい。いまは、自分が一番頑張れる時期だから」と、きらきらと輝く笑顔がとて素敵な桐沢さん。これからは一つ役をこなすたび、確実に大きくなっていくに違いない。

小田原彩時記



小田原の合唱団が全日本合唱コンクール全国大会で金賞

全日本合唱連盟などが主催する「第57回全日本合唱コンクール全国大会」が、11月20日(土)・21日(日)に松山市内で開かれ、一般部門Aグループ(12人以上32人以下)に関東支部代表として参加した、市内を拠点に活動するマルベリー・チェンバークワイアが金賞と愛媛県知事賞を受賞しました。

小田原少年少女合唱隊の卒団者によるマルベリー・チェンバークワイアは全国大会の常連。金賞の受賞は平成12年の第53回大会以来の3回目となります。

また、マルベリー・チェンバークワイアはシード合唱団に選ばれ、来年度の全国大会への出演も決まりました。



「50ファーストデート」(原題)
※ソニー・ピクチャーズエンタテインメント配給
(特別先行上映作品)



「血と骨」



「少年時代」

小田原映画祭シネマトピア2005

開幕迫る! 上映作品が決定!

小田原で初めての映画祭がいよいよ始まります。
力強いバラエティに富んだ作品がそろい、早くもこの冬の話題を独占しそうです。
小田原の新しい映像の歴史の開幕に、皆さんもぜひ立ち会ってください。

問 広報広聴室 ☎33-1261

メイン会場の市民会館には、
大物ゲストが勢ぞろい。
2004年ベストワンの呼び声高い
「血と骨」を上映。
崔洋一監督が大いに語る!

市民会館大ホール

2月4日(金)

波/クリスマスにお茶碗を/クイール/
血と骨 ※ゲスト:崔洋一さん(映画監督)

2月5日(土)

西遊記/伊豆の踊り子/二十四の瞳/
50ファーストデート(特別先行上映)

2月6日(日)

火垂るの墓/少年時代(ゲスト:山田太一さん)/
ショートフィルムコンテスト表彰式

新作映画は小田原からはじまる!
なんと先行上映作品4本!
小田原口ケの「セカチュー」も帰ってくる。

TOHOシネマズ小田原

2月4日(金)

利休/怪談(4~6日)/50ファーストデート(特別先行上映)
/ライディングジャイアント(特別先行上映)/天国と地獄/
世界の中心で、愛をさけぶ(4~6日)/純愛中毒/ス
テップフォードワイフ(特別先行上映)/機動戦士ガンダム

2月5日(土)

徳川家康/ドッジボール(特別先行上映)/猟奇的な彼
女/機動戦士ガンダムII哀・戦士編/ラブアクチュアリー

2月6日(日)

風雲児信長/シャークテイル(特別先行上映)/
ラブストーリー/ブリジッドジョーンズの日記/
機動戦士ガンダムIIIめぐりあい宇宙(そら)編

新作・旧作・名作が勢ぞろい。
小田原映画祭ならではの
充実プログラム。

小田原コロナシネマワールド

2月4日(金)

チルソクの夏/
初恋のきた道/クリスマスにお茶碗を/
プラス

2月5日(土)

千年火/
血と骨

2月6日(日)

50ファーストデート(特別先行上映)
若草物語

ゲストの顔が間近に見える、
講演・トーク会場。
若きクリエイターの登竜門
ショートフィルムコンテスト入選作はこちら。

市民会館小ホール

2月3日(木)

朋あり

2月4日(金)

ショートフィルムコンテスト作品上映(4~6日)/生きて
はみたけれど 小津安二郎伝 ※ゲスト:井上和男さん
(映画監督)/美女缶 ※ゲスト:寛昌也さん(映画
監督)/森克彦さん(映画監督)/藍坊主プロモ ※
ゲスト:藍坊主(ロックバンド)

映画に酔い、音楽に酔い、美酒に酔う、
ちょっとぜいたくな時間。
映画を見ながら、
銀幕の世界を料理で再現。
主人公になりきる特別な夕べ。

ヒルトン小田原リゾート&スパ

1月16日(日)

カサブランカ

※映画にちなんだ料理(有料メニューオプション)

社会学・科学・芸術のテーマ別の
特別プログラム。
「東京裁判」は今日の世界情勢解明の
ヒントになるでしょう。

かもめ図書館

1月22日(土)

東京裁判 ※トーク:小笠原清さん(映画監督)

1月29日(土)

めだかの誕生/スーパーカミオカンデ/みなまた日記

1月30日(日)

マエストロマエストロカラヤン/小犬を連れた貴婦人

※このほか、なりわい交流館、商店会など街かどで行う自主上映会でも、楽しい企画が盛りだくさんです。お楽しみに。

当日枠もごさいますが確実にご入場を希望されるかたは事前申し込みをお勧めします。なお、プログラムには無料のものと有料のものがあります。詳しい申込方法や上映時間などは「おだわらいふ」1月15日号でお知らせします。

心におみやげ、
見つけて小田原。

この映画祭は、企画・運営をはじめ、そのほとんどを実行委員と市民ボランティアをはじめとした市民スタッフによって担われています。まさに市民の心意気で作り上げた、手作りの映画祭なのです。この歴史的な祭典を、皆で一緒に楽しみましょう。市民ボランティアスタッフ募集中 詳しくはお問い合わせください。

発行 ● 小田原市 市役所総合案内 0465 33 1302 小田原市萩窪3000番地 広報おだわらいふは、資源保護のため古紙100%の再生紙を使用しています。